



Sustainable Community Center Japan

NPO
New Public Organization
欲しいものは自分達で創る

2007 年度 活動報告書

2007 年 1 月 1 日～2007 年 12 月 31 日

2008 年 2 月 22 日

特定非営利活動法人
日本サステイナブル・コミュニティ・センター
<http://www.sccj.com/>

目次

はじめに「2007 年度の報告と今後の抱負」

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」
 - 1-1. どこカル. ネットの活動概要
 - 1-2. どこカル. ネットのサービス概要
 - 1-3. どこカル. ネットの各種活動実績
 - 1-4. どこカル. ネット運営体制

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業
 - 2-1. みあこネットの事業概要
 - 2-2. みあこネットの各種活動実績
 - 2-3. みあこネット運営体制

3. 研究会事業（産官民学の活発な人材交流）
 - 3-1. 京都研究会

4. 広報・マーケティング
 - 4-1. 各種メールリスト運営
 - 4-2. Web サイト運営

5. 会員について

II センター運営に関する活動

1. 総会開催
2. 2007 年度 SCCJ 理事会開催日
3. 事務局体制
4. 理事、監事、顧問

はじめに「2007年度の報告と今後の抱負」

特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センターの会員の皆様、新しい年を迎え、2007年度の事業報告と決算、そして2008年度の事業計画と予算について、ご審議いただく時期になりました。

私たちの活動については、社会的な理解も広がり、さまざまな形で持続可能な地域社会をつくり上げていく一助となりつつあるのではないかと考えています。その中で、従来活動を直視し、新たな方向に向けて舵取りをしていくべきところも明らかになってきました。私たちの活動も変化の時期に入ってきたというのが率直な印象です。

2007年度においては、「どこカル・ネット事業」のように着実に成長を遂げ、実績を上げてきたものもあります。また一方では、「みあこネット事業」のように、私たちの活動としては普及支援へと大きく転換を行い、新たな体制を模索することになった事業もありました。また、自立された「ユメチエプロジェクト」はがんばっておられるのですが、残念ながら、私たちが進めようとしながら、不活発に終わった「こちネット事業」もあります。

1999年に活動を始めて以来、今年10年目に入ります。また、法人化して以来、7年目を迎えることとなります。それを踏まえた2007年12月の京都研究会は、これまでの活動を振り返り、今後の方向を模索する、まさに変化の時期を象徴するような研究会になりました。同時にそこでは、今後の私たちの活動方向について、いろいろなご示唆をいただきました。特に、印象深いのは、私たち本来の目的である持続可能な地域づくりへの強い期待でした。

2008年度は、こうした期待の声に応えるべく、しっかりと活動を組み立てて行きたいと考えています。「どこカル・ネット事業」の更なる発展をめざすことはもちろんですが、「みあこネット事業」については新たな普及支援体制づくりを進める必要があります。事実上、休止状態にあった「こちネット」については、以前のように研究会活動から始めて、活動を組み立て直していくことも必要だと考えているところです。

まだまだ発展途上にあり課題の多い私たちですが、会員の皆様の支えと、広く市民活動にご理解をいただいている各位のご協力により、今年もしっかりと活動を重ねてまいりたいと思います。皆様からのご指導とご助力をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

2008年2月吉日

特定非営利活動法人
日本サステナブル・コミュニティ・センター
代表理事 **新川達郎**

I センター事業活動実績

1. ユビキタス地域健康・医療・福祉情報ネットワーク事業「どこカル. ネット」

<http://www.dokokaru.net>

1-1. どこカル. ネットの事業概要

どこカル. ネットは、近年、少しずつ普及しはじめた医療機関毎の電子カルテシステムをインターネット上で安心・安全に相互利用するための仕組みをつくることで、いつでも、だれでも、どこでも、安心・安全で質の高い医療を受けることができるような(すなわち、どこでもカルテが見ることが出来るような)地域の情報化を住民の手で実現しようというプロジェクトとして、2004年5月に開始。

「どこカル. ネット」プロジェクト開始以前に、事業統括責任者が支援してきた3地区に加えて、現状、15地区の地域中核病院に対してASP型電子カルテ導入支援を行っている。

また、同プロジェクトに賛同する30社を会員に迎え、導入支援チームとして、会員数社から5名のボランティアスタッフにSEとして協力いただいている。

支援地区: 18地区(2007年12月末に於いて)

1-2. どこカル. ネットのサービス概要

■特徴: いつでも、どこでも、だれでも、安心安全で質の高い医療を受ける事が出来る社会的な仕組み作り

- 【1】 いつでも: ASP型電子カルテをツールとして、「かかりつけ医(診療所)」と「病院」で24時間体制の連携を目指し、診療情報の共有(一地域一患者一電子カルテ)を行う。(注: ASP型電子カルテとは、インターネットエクスプローラーなど、ホームページ閲覧ソフトのみで利用可能な電子カルテのことである。)
- 【2】 どこでも=ユビキタス: 「みあこネット方式普及支援事業」プロジェクトとの協業により、医療機関内だけでなく、患者=住民の自宅や外出先での急病で初診した医療機関、救急現場に居合わせた医療関係者に過去の診療情報を共有やその情報に基づく適切な医療が可能。
- 【3】 だれでも: ITコンソーシアム京都(京都府・京都市・京都商工会議所と有識者で構成)医療情報化部会との協業で進められている「共通診察券(無償)」を持つ事で、適切な医療を受けることが可能。
- 【4】 安心安全: 「みあこネット方式普及支援事業」の高度なセキュリティを持った公衆無線インターネット用アクセスマルータ(無線基地局)を利用。また、医療従事者や患者=住民の識別や認証には、「共通診察券」と「指静脈紋認証(生体認証のひとつ)」を組み合わせている為、世界最高レベルの環境を提供している。さらに、診療情報の共有により、薬アレルギーや現在内服中の薬との飲み合わせのチェック等がその場で可能。→医療過誤防止へ。
- 【5】 質の高い健康・医療・福祉: 共有されている診療情報の内、本人のご承諾が得られた情報については匿名化し、「その地域の住民特有の」健康・医療・福祉情報として統計解析し、「その地域の住民に最適な」健康・医療・福祉環境を探求する。また、解析結果を基に、一人一人の住民に最適な健康・医療・福祉をテラーメイドで提供。

1-3. どこカル. ネットの各種活動実績

2007年度は以下の活動を実施した。

■「どこカル. ネット」事業会議

週1回、京都医療センター臨床研究センターにて事業統括責任者、スタッフ一同で定例会議を実施。2007年度においては計41回の会議を開催した。

■医療機関・学術団体向けの医療情報システム・医療関連システム導入・構築・更新に対するコンサルテーション

医療機関側に不足しがちなITスキルを補い、助言をし、医療機関と同じ立場で導入ベンダと交渉等を行う。また、医療情報を適切に扱う体制作りや、問題解決に対する助言、支援を実施。2007年度における定期的な支援先医

療機関、団体は 12 施設。

■「どこカル.ネット」会員研修会

本プロジェクトの概要と現状、進捗状況等について情報共有すると共に、会員互の連携・親睦を図る機会として2ヶ月に一度開催。2007 年度においては 6 回の研修会を開催した。

＜研修会開催日＞

- ・ 2007 年 2 月 16 日(金) 第 14 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2007 年 4 月 20 日(金) 第 15 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2007 年 6 月 29 日(金) 第 16 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2007 年 8 月 24 日(金) 第 17 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2007 年 10 月 26 日(金) 第 18 回どこカル.ネット企業会員研修会
- ・ 2007 年 12 月 7 日(金) 第 19 回どこカル.ネット企業会員研修会



写真:会員研修会での様子

■「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」の実施

将来の医療従事者の育成・発掘、また創造的な医療分野の開拓を目的とし、小学生を対象とした作文コンクールを実施。

第3回目の開催となる2007年度は、全国の小学生から作文が応募され、群馬大学附属小学校3年生伊佐碩恭様に最優秀賞が授与された。第1回目、第2回目と比べ応募総数は若干下回ったものの、未来の医療に対し多くの子供達が夢を抱いていることがどの作品からも読み取ることができ、開催の意義が感じられた。2008年度以降も継続して開催予定である。

■ リフレッシュ PC プロジェクト

病院や企業で使用され、不要となったパソコンを用い、学校や地域の情報化を進める活動を行っている。学生インターンシップ生やボランティアの活躍によりパソコン本体を掃除し、内部のデータを消去して新たに利用可能な状態(リフレッシュ PC)にすることによって、遊休資源を地域の学校や各種団体にとっての必要な資源へと生まれ変わらせる活動である。

2007年度は京都市中京区の本能学区にあたる「五条少年補導委員会本能支部」に対し、リフレッシュ PC3セットの配布を行った。本能学区では、地元保護者で形成される五条少年補導委員会本能支部においてリフレッシュ PCが活用され、地域情報の共有に役立っている。

■ 大学コンソーシアム京都インターンシップ

2007年度は財団法人大学コンソーシアム京都の主催する、大学生の夏休み期間を利用したインターンシップ・プログラムを昨年に引き続き参加した。インターンシップ生は3名の採用を行い、8月1日～31日の1ヶ月間、上記「未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」、「リフレッシュ PC プロジェクト」の企画・実施をした。当センターでの就業体験により、次年度以降も市民主体の社会貢献活動を広げていきたい。

■ 2007年の主なイベント一覧

- 01月07日～12日 HL7 January Working Group Meeting
- 01月22日 医療システム研究会
- 02月16日 第14回どこカル.ネット企業会員研修会
- 03月09日 総務省主催「第1回ユビキタス健康医療シンポジウム」
- 03月15日 厚生科学研究（平成18年度第2回）宇野班会議
- 03月26日 厚生科学研究（平成18年度第2回）竹内班会議
- 04月06日 【厚労省】保険局業務保険システム高度化推進室会議
- 04月13日 【厚労省】保険局業務保険システム高度化推進室会議
- 04月20日 第15回どこカル.ネット企業会員研修会
- 05月11日 【厚労省】保険局業務保険システム高度化推進室会議
- 06月05日 【IT戦略本部】第2回電子行政推進国・独立行政法人等CIO補佐官連絡協議会
- 06月14日 【IT戦略本部】CIO補佐官連絡協議会 第2回情報セキュリティWG
- 06月18日 【IT戦略本部】CIO補佐官連絡協議会 第2回情報技術WG
- 06月29日 第16回どこカル.ネット企業会員研修会
- 06月30日 第16回「都市問題」公開講座シンポジウム基調講演
- 07月01日～09月30日「第3回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」実施
- 07月02日 【IT戦略本部】CIO補佐官連絡協議会
Patrice-Emmanuel Schmidt氏との意見交換会およびWG5
- 08月24日 第17回どこカル.ネット企業会員研修会開催
- 09月01日 【国際医福大】第1回テキストマイニング研究会
- 10月19日 厚生科学研究（平成19年度第1回）竹内班会議
- 10月22日 京都地方裁判所電子カルテ研修会講師
- 10月26日 第18回どこカル.ネット企業会員研修会開催
- 11月02日 厚生科学研究（平成19年度第1回）成川班会議
- 11月10日 【京都女子大学公開講座】安心・安全なまちづくり講演会
- 11月17日 第61回国立病院総合医学会
- 12月07日 「第3回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール」表彰式
- 12月07日 第19回どこカル.ネット企業会員研修会開催
- 12月21日 【UMIN】UMIN-HOSPnet接続に係る研究会
- 12月26日 【厚労省】第4回「医療サービスの質の向上等のためのレセプト情報等の活用に関する検討会」

また、2008年1月にHL7 January Working Group Meeting San Antonio, TX, USA へ出席予定。

1-4. どこカル.ネット運営体制

■運営体制 <http://www.dokokaru.net/modules/tinyd0/index.php?id=7>

【どこカル.ネット責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	北岡 有喜	独立行政法人国立病院機構本部参与(情報化統括責任者(CIO)補佐官)/京都医療センター医療情報部長/臨床研究センター情報推進研究室長/SCCJ副代表理事
総括技術責任者	坂本 憲広	神戸大学大学院医学系研究科 クリニカルゲノムインフォマティクスセンター長
技術運用責任者	成田 徹郎	金沢工業大学大学院 客員教授
担当顧問	國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授/CAN フォーラム会長

【企業/団体会員】

種別	企業名	企業名
企業会員	アイテック阪神株式会社	株式会社アピウス
	アライドテレシス株式会社	イーメディカルシステム株式会社
	株式会社インスパイア	株式会社ウィルコム
	キャノンシステムソリューションズ株式会社	サクサ株式会社

	株式会社シー・エイ・ティ	株式会社ジャストシステム
	中央システムサービス株式会社	ニッセイ情報テクノロジー株式会社
	日本ビジネスコンピューター株式会社	日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社
	株式会社ファルコバイオシステムズ	プロスパーク株式会社
	株式会社YOZAN	

他 13 社、計 30 社 1 団体(2007 年 12 月末現在)

2. 公衆無線インターネット事業「みあこネット方式」普及支援事業

<http://www.miako.net/>

2-1. みあこネット方式普及支援事業の事業概要

みあこネットとは、市民の手で自分の住んでいる地域を情報化しようというプロジェクトで、当法人の呼びかけにより 2002 年 5 月から広がり、市民有志の負担でアクセスポイントを設置・運用する実証実験である。

プロジェクト開始から 2005 年 3 月末までの 3 年間の実証実験をふまえ、企業内、家庭内におけるネットワークへ、安心・安全に基地局を運営し、また利用者にとっても簡単に公衆でインターネット接続を利用できる方法として、VPN を利用した「みあこネット方式」を提唱し、同方式の普及支援活動を実施した。

2007 年度は、昨年度に引き続き「みあこネット方式」を採用した基地局を地域インターネットサービスプロバイダである京都アイネット株式会社により管理・運用され、広く市民に開放されたインターネット接続サービスが実施された。今後の当事業については、2008 年度より各基地局運用者の自律・分散型の基地局運営を目指し、同方式の普及支援を行う。

2-2. みあこネット方式普及支援事業の各種活動実績

■「みあこネット方式」普及支援事業会議

大学研究者、地域住民、行政担当者をコアメンバーとして迎え、同方式の普及を図る会議を運営した。2007 年度は計 7 回の事業会議を開催した。

■「みあこネット方式」採用企業との技術交流会開催

ISP や公衆インターネット接続事業者などと、同方式を用いた事業展開の支援に関する交流会を開催した。

<開催日一覧>

- ・ 2007 年 01 月 23 日(火)
- ・ 2007 年 02 月 20 日(火)
- ・ 2007 年 05 月 09 日(水)
- ・ 2007 年 07 月 24 日(火)
- ・ 2007 年 11 月 13 日(火)

■外国人観光客向けのインターネットアクセス環境の整備

京都市国際交流会館をはじめとし、外国人観光客・滞在者が集多くまる場所において、インターネットアクセス環境を整備する活動を行った。

<外国人観光客、留学生が利用可能な施設>

- ・ 京都市国際交流会館

住所:京都市左京区栗田口鳥居町 2 番地の 1

- 無線インターネット「みあこネット」の利用及び外国人観光客向けの ID 発行サービスの支援を実施しています。



写真：京都市国際交流会館

- ・ 京都大学留学生ラウンジ「きずな」

住所:京都市左京区吉田本町 本部構内

- 無線インターネット「みあこネット」の利用が可能となっております。(※京都大学の学生・教職員を対象とした場所となります。)

■市販の無線ルーターを「みあこネット方式」に適応

公衆無線基地局を設置する際、利用者、基地局設置者が共に安心して利用できる環境を用意する必要があるため、市販の公衆設置型無線ルーターに対し、VPNによる通信のみ許可をする「みあこネット方式」に適応する調整を行

った。この基地局は、「みあこネット方式」に対応した基地局として多くの通信事業者で普及可能なものである。

■ 研究・実験

前年に引き続き、P2P(Peer to Peer) Universal Computing Consortium(PUCC)(有限責任中間法人PUCC)でのコンソーシアムにて研究・実験を実施しており、PUCC で策定している P2P ストリーミングプロトコルに対し、マルチキャストストリーム中継に関する仕様の追加と、実験環境の構築を行なっている。

マルチキャストは、受信者数の増加に対してスケラビリティが有り、受信者数が増えても帯域を有効利用できる通信方式であるため、マルチキャストが利用できる環境では積極的に利用することが望ましいと考えられる。

しかし、多くのインターネット環境ではマルチキャストを中継することできないため、P2P ストリーミングプロトコルによってマルチキャストストリームの送信、中継、受信のシグナリングが完了しても、実際にはコンテンツが受信ノードまで届かないことが考えられる。

本共同研究ではこれらの問題を解決するため、マルチキャストが利用できない環境では、IP トンネルやアドレス・ポート変換技術と組み合わせ、次中継ノードまでの中継を行う方法について検討しており、今後実験で動作の検証を行なう。

2-3. みあこネット方式普及支援事業の運営体制

■ 運営体制 <http://www.miako.net/about/organization.shtml>

【みあこネット責任者】

役職	氏名	所属団体
事業統括責任者	岡部 寿男	京都大学学術情報メディアセンターネットワーク研究部門教授
総括技術責任者	古村 隆明	京都大学 学術情報メディアセンター 産学官連携准教授
担当顧問	今井 賢一	スタンフォード日本センター理事
	辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科教授
	國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授
	北岡 有喜	独立行政法人国立病院機構本部参与(情報化統括責任者(CIO)補佐官)/京都医療センター医療情報部長/臨床研究センター情報推進研究室長/SCCJ副代表理事

【企業/団体会員】

種別	企業名
企業会員	日本通信株式会社
	京都アイネット株式会社
団体会員	有限責任中間法人PUCC

(2007 年 12 月末現在)

3. 研究会事業 (産官民学の活発な人材交流)

3-1. 京都研究会

1 年に 1 度、12 月に開催している「京都研究会」が 9 回目を迎えた。続可能なコミュニティの形成を目指して、地域に必要とされる社会的事業の発展に寄与するべく、ICT 技術をコアにしながら、さまざまな活動展開をしてきたが、組織的にも、1998 年の活動をきっかけに翌年には任意団体として、そして 2002 年には NPO 法人として活動を進めてきた状況での開催であった。

2007 年度の京都研究会は、10 年間の SCCJ 自らの活動を多くの方々とともに見つめなおし、その将来について語り合う機会となり、この 10 年の間に SCCJ の事業の質や量も大きく変革のあるものになり、社会的にも必要とされる活動は大きく変化した。そのなかで、今後の SCCJ の具体的な活動方向を、皆さんと一緒に考察する機会となった。

■ 第 9 回京都研究会 2007 開催 「サステナブル・コミュニティの再考」

<http://www.sccj.com/kk/2007/>

- ・日時:2007年12月7日金曜日 13:00～
- ・場所:ひと・まち交流館 京都2階 大会議室(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1)

【内容】

■受付開始:12:00

■第1部 研究会:13:00～16:00

セッション①「SCCJのこれまでとこれから」

■進行:新川 達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事)

■演者:谷田 吉貞 氏(「愛きもの谷田吉貞」代表)、ほか

セッション②「みあこネットのこれまでとこれから」

■進行:岡部 寿男(京都大学学術情報メディアセンター 教授/みあこネット方式普及支援事業統括責任者)

■演者:古村 隆明(京都大学学術情報メディアセンター 産学官連携准教授/みあこネット方式普及支援事業統括技術責任者)

どこカル.ネット『第3回未来のお医者さん・看護師さん作文コンクール』最優秀賞表彰式

セッション③「個人の生涯健康履歴管理をどこカル.ネットが支援します」

■進行:北岡 有喜(NHO 京都医療センター 医療情報部長/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター副代表理事 どこカル.ネット事業統括責任者)

■演者:HL7v3準拠システム開発作業部会メンバー(根津 氏・小森 氏・西土 氏・山口 氏・成田 氏・長峯 氏)

■会場参加者、演者を交えた総合討論会

コーディネータ:新川 達郎(同志社大学大学院総合政策科学研究科教授/NPO 法人日本サステナブル・コミュニティ・センター代表理事)

別会場へ送迎バスにて移動(「ホテルリょうぜん」へ)

■第2部 分科会(懇親会):17:00～19:00

【運営体制】

主催:特定非営利活動法人日本サステナブル・コミュニティ・センター

後援:京都府、京都市、京都新聞社、ITコンソーシアム京都

4. 広報・マーケティング

Web サイト、プレスリリース、各種メールリストでの広報・マーケティングを行った。

4-1. 各種メールリスト運営 (Yahoo! eGroups 利用)

SCCJ 関連で、テーマ、目的別のメールリストが10数本あり、ネット上で協働作業や情報交換を行っている。その中でも一般情報交換用メールリスト「aibousan」は、誰でも入れる双方向型のメールリストで、設立当初の1999年の190名から数年たち、2007年12月末に登録者は824名となった。

4-2. Web 広報

2007年現在運営しているサイトは以下の通り。

- ・SCCJ の Web サイト <http://www.sccj.com/>
- ・みあこネット <http://www.miako.net/>
- ・どこカル.ネット <http://www.dokokaru.net>
- ・ユメチエ <http://yumetier.net/>

5. 会員について (2007年12月末現在)

<SCCJ正会員>

会員種別	継続	新規	計
一般	22	4	26
学生	1	2	3
合計	23	6	29

<SCCJ 企業・団体会員>1 団体

社会福祉法人西陣会

＜みあこ企業・団体会員＞2社1団体
詳細は「みあこネット普及支援事業」項目を参照のこと。

＜どこカル.ネット企業・団体会員＞30社1団体
詳細は「どこカル.ネット」項目を参照のこと。

II センター運営に関する活動

1. 総会

特定非営利活動法人日本サステイナブル・コミュニティ・センター 総会
日時：2007年2月13日(火) 19:00-20:00
会場：同志社大学大学院総合政策科学研究科会議室
2006年度事業報告、収支報告、2007年度役員体制が了承された。

2. 2007年度 SCCJ 理事会開催

下記の日程に於いて、理事、事務局スタッフによる定期理事会を開催した。

- ・ 2007年01月17日
- ・ 2007年02月13日
- ・ 2007年04月13日
- ・ 2007年05月17日
- ・ 2007年06月19日
- ・ 2007年07月19日
- ・ 2007年09月06日
- ・ 2007年10月09日
- ・ 2007年11月06日
- ・ 2007年12月06日

3. 事務局体制 (2007年12月末現在)

(1) 職員

常勤:3名
プロジェクト・コーディネータ:小川麻理
プロジェクト・マネージャー:隅岡敦史
プロジェクト・マネージャー:中辻善行
どこカル.ネット ボランティア:5名

4. 理事、監事、顧問 (2007年12月末現在)

代表理事	新川 達郎	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 教授
理事	竹原 司 (副代表理事)	ナレッジオートメーション(株) 代表取締役
	北岡 有喜 (副代表理事)	独立行政法人国立病院機構本部参与(情報化統括責任者(CIO)補佐官) /京都医療センター医療情報部長/臨床研究センター情報推進研究室長/ SCCJ副代表理事
監事	土井 充	公認会計士 土井充事務所
顧問	跡田 直澄	慶応大学 商学部 教授

今井 賢一	スタンフォード日本センター 理事 京都府中小企業総合センター 所長
大村 皓一	宝塚造形芸術大学 大学院映像造形学科 教授
三木 秀夫	弁護士・大阪 NPO センター 理事
國領 二郎	慶應義塾大学環境情報学部教授 / CAN フォーラム会長
辻 正次	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授
北矢 行男	多摩大学経営情報学部・大学院修士課程 教授 戦略問題研究所 所長
公文 俊平	国際大学グローバル・コミュニケーション・センター 所長 CAN フォーラム 会長
林 敏彦	スタンフォード日本センター理事長
町田 洋次	社団法人 ソフト化経済センター 理事長代行
山内 直人	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 教授

以上